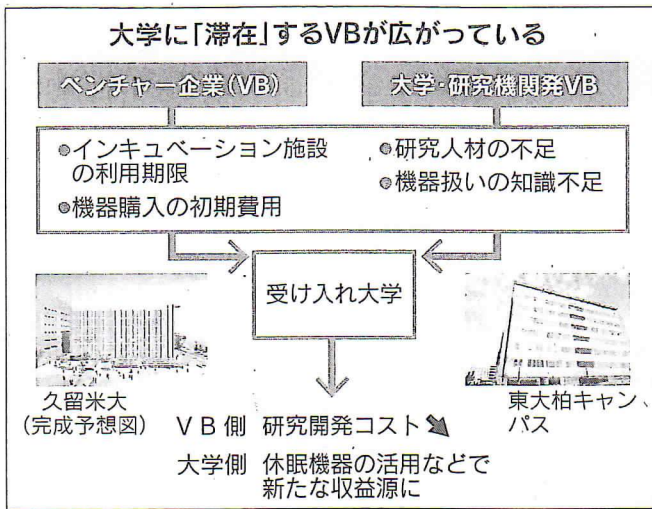


高度な施設、安く活用

大学滞在ベンチャー台頭

大学の研究装置や施設を学外のベンチャー企業(VB)が活用する取り組みが進んでいる。創薬やバイオ系VBが高度な機器を研究用に安く使わせてもらって経費を抑える。大学も稼働日数が少ない設備を有償で貸し出すことで新たな収益源にする。「大学滞在」VBが広がってきた。

アドバンジェン 分析の費用300分の1
ボナック 実験センターで創薬



働きを阻害する植物エキスを含んだ育毛剤を開発した。有効成分の解析や効果を高める育毛剤の開発などにリアルタイムPCRと呼ぶ装置や化合物の分子量を測る質量分析機器を合わせて100回

大学に「滞在」するVBが広がっている
ベンチャー企業(VB)
大学・研究機関発VB
インキュベーション施設の利用期限
機器購入の初期費用
研究人材の不足
機器扱いの知識不足
受け入れ大学
久留米大(完成予想図)
東大柏キャンパス
VB側 研究開発コスト
大学側 休眠機器の活用などで新たな収益源に

以上活用した。リアルタイムPCRは検出したDNAがごく微量でもどんな遺伝子が確認できる。2002年に起業した当初は産総研のインキュベーション施設で開発を進めたが、入居期間の500分の1程度の費用負

年が過ぎた07年に中小企業基盤整備機構(中小機構)が運営する東大柏ベンチャープラザに居した。同社の山本昌邦研究開発部部長は「数力所を検討して東大柏ベンチャープラザに入った」と話す。決め手は、東大の研究機器を活用できることだったという。

同社が東大の施設で活用した質量分析器などを自費で購入すると約500万円かかる。東大の設備の使用料は07~17年の11年間で合計16万2000円。購入に比べて300分の1程度の費用負

担で済んだ。「機器利用に詳しい研究者の手も借りられる。効率良く開発ができる」と山本部長。13年にはオーストラリアの医薬品開発会社セルミドの傘下に入り、同国向け育毛剤の開発に東大の知見を生かしている。初期の研究開発に必要な費用は巨額になれば、VBに重くのしかかる。実験施設を民間に貸し出す動物で試す計画だ。

す動きも出てきた。医科系では歴史がある久留米大学は18年に開設する動物実験センターを同大発VB以外にも広く開放する。民間開放型の動物実験施設としては国内初の事例だ。核酸医薬品製造VBのボナック(福岡県久留米市、林宏剛社長)は同センターに入居して、製造した新薬

ボナックはDNAなどの核酸を成分として用いる核酸医薬品の原料開発から創薬まで手掛ける。7月下旬には富士ファイルから5億円を調達し業

務は、VBの待たす元をつく。影学VR用度る機最はVらの+待たす元をつく。影学VR用度る機最はVらの+待たす元をつく。

影学VR用度る機最はVらの+待たす元をつく。影学VR用度る機最はVらの+待たす元をつく。